

0.1 H21 数学必修

<https://www.math.kobe-u.ac.jp/HOME/home-j/gif/h21.pdf>

$$\boxed{1} \quad (1) \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & -1 \\ -a & -3 & 6 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & -1 \\ -a & -3 & 6 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ a & 0 & -3 \end{pmatrix} \quad A \text{ の階数は一次独立な列ベクトルの数であるから, } a \neq -3 \text{ で } \text{rank} A = 3, a = -3 \text{ で } \text{rank} A = 2 \text{ である.}$$

(2) $a \neq -3$ なら A は正則, すなわち ϕ_a は全単射であるから, $\ker \phi_a = \{0\}$ である. $a = -3$ なら $\begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ -3 & 0 & -3 \end{pmatrix}$ より $\ker \phi_{-3} = \left\langle \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$ である.

(3) $a \neq -3$ なら ϕ_a は全単射であるから, $\phi_a(\mathbb{R}^3) = \mathbb{R}^3$ である. よって $\phi_a(\mathbb{R}^3) \cap L_\lambda = L_\lambda$ である.

$a = -3$ のとき, $\phi_{-3}(\mathbb{R}^3) = \left\langle \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \right\rangle$ である. $v \in \phi_{-3}(\mathbb{R}^3) \cap L_\lambda$ とすると, $v = c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix} =$

$d_1 \begin{pmatrix} \lambda \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix} + d_2 \begin{pmatrix} 1 \\ \lambda \\ 0 \end{pmatrix}$ となる. よって $c_1 = d_1\lambda + d_2, c_2 = d_2\lambda, -3c_2 = 3d_1$ である.

$\lambda = 0$ のとき, $c_2 = 0 = d_1, c_1 = d_2$ より $v = c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ である. すなわち $\phi_{-3}(\mathbb{R}^3) \cap L_0 = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \right\rangle$ である.

$\lambda \neq 0$ のとき, $d_2\lambda = c_2 = -d_1$ より $d_2 = -d_1/\lambda, c_1 = d_1\lambda - d_1/\lambda$ となる. よって $v = d_1 \begin{pmatrix} \lambda \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix} - d_1/\lambda \begin{pmatrix} 1 \\ \lambda \\ 0 \end{pmatrix} =$

$d_1 \begin{pmatrix} \lambda - 1/\lambda \\ -1 \\ 3 \end{pmatrix}$ である. すなわち $\phi_{-3}(\mathbb{R}^3) \cap L_\lambda = \left\langle \begin{pmatrix} \lambda - 1/\lambda \\ -1 \\ 3 \end{pmatrix} \right\rangle$ である.

$\boxed{2} \quad (1) x \in \mathbb{Z}$ に対して, $p\mathbb{Z}$ による同値類を $[x]$ と表すことにする. $[x] \in F_p \setminus \{0\}$ にたいして x, p は互いに素であるから, $kx + \ell p = 1$ となる $k, \ell \in \mathbb{Z}$ が存在する. よって $[x][k] = [1 - \ell p] = [1]$ より $[x]$ は可逆元である. よって F_p は体.

(2) F_p が体であるから $F_p[x]$ は PID となり次が成り立つ. $F_p[x]/(x^2 + 1)F_p[x]$ が体 $\Leftrightarrow (x^2 + 1)F_p[x]$ が極大イデアル $\Leftrightarrow (x^2 + 1)F_p[x]$ が素イデアル $\Leftrightarrow (x^2 + 1)$ が素元 $\Leftrightarrow x^2 + 1$ が既約.

$p = 3$ のとき, $x^2 + 1$ に $0, 1, 2$ を代入しても 0 にならないから, 因数定理より $x^2 + 1$ は既約. よって体.

$p = 5$ のとき, $[3^2 + 1] = [10] = [0]$ より $x^2 + 1$ は可約. よって体ではない.

(3) 列ベクトルが一次独立となるような a, b, c, d の選び方は, 一列目が 0 でなく 2 列目が 1 列目の定数倍にならないように選べばよい. したがって位数は $(p^2 - 1)(p^2 - p)$ 通り.

(4) $A, B \in H$ に対して, $ABe_1 = Ae_1 = e_1$ であり, $Ae_1 = e_1$ に A^{-1} をかけて $e_1 = A^{-1}e_1$ を得るから H は部分群.

$\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = e_1$ より $a = 1, c = 0$ である. よって b, d の選び方は $p^2 - p$ 通りだから $|H| = p^2 - p$ である.

$\boxed{3} \quad (1) A = \{\emptyset, X\}, B = \{\emptyset, X, \{1\}\}, C = \{\emptyset, X, \{2\}\}, D = \{\emptyset, X, \{1\}, \{2\}\}$ の 4 つが位相である.

(2) $f^{-1}(\{a\}) = \{b\}, f^{-1}(\{b\}) = \{a\}$ である. よって f が連続となるのは A, D のみ.

(3) g は全単射であるから集合 X の大きさを $|X|$ と表すことにすれば、 $|g^{-1}(A_k)| = |A_k|$ である。大きさ k の開集合は A_k のみであるから $g^{-1}(A_k) = A_k$ である。よって $g^{-1}(A_1) = g^{-1}(\{a_1\}) = \{a_1\}$ より $g(a_1) = a_1$ である。 $g(a_k) = a_k$ が $k \leq m-1$ で成り立つとき、 $g^{-1}(A_m) = g^{-1}(\{a_1, \dots, a_m\}) = \{a_1, \dots, a_m\}$ より $g(a_m) = a_m$ である。帰納的に $g(a_m) = a_m$ が $m = 1, \dots, n$ について成り立つ。よって g は恒等写像。

[4] (1) $x \geq y$ とする。 $|F(x) - F(y)| = |\int_a^x f(x)dx - \int_a^y f(x)dx| = |\int_y^x f(x)dx| \leq \int_y^x |f(x)|dx$ である。 f は有界閉集合上の連続関数であるから最大値 M をもつ。よって $\int_y^x |f(x)|dx \leq M(x-y)$ である。すなわち $F(X)$ は M リプシッツ連続。よって一様連続。

(2) $|\int_a^b f_n(x)dx - \int_a^b f(x)dx| = |\int_a^b (f_n(x) - f(x))dx| \leq \int_a^b |f_n(x) - f(x)|dx \leq \int_a^b \sup_{x \in I} |f_n(x) - f(x)|dx \leq (b-a) \sup_{x \in I} |f_n(x) - f(x)|$ である。一様収束するから $\lim_{n \rightarrow \infty} \sup_{x \in I} |f_n(x) - f(x)| = 0$ である。よって $\lim_{n \rightarrow \infty} |\int_a^b f_n(x)dx - \int_a^b f(x)dx| = \lim_{n \rightarrow \infty} (b-a) \sup_{x \in I} |f_n(x) - f(x)| = 0$ である。

(3) $G(x) = \int_a^x g(x)dx + f(a)$ とする。 G は微分可能で $G' = g$ である。すなわち G は C^1 級である。 $\int_a^x g(x)dx = \lim_{n \rightarrow \infty} \int_a^x f'_n(x)dx = \lim_{n \rightarrow \infty} (f_n(x) - f_n(a)) = f(x) - f(a)$ である。よって $G(x) = f(x)$ であるから f は C^1 級で $g = f'$ である。

[5] (1) $s^{3/2} = x, t^{3/2} = y$ と変数変換する。ヤコビアンは $\begin{vmatrix} \frac{3}{2}s^{1/2} & 0 \\ 0 & \frac{3}{2}t^{1/2} \end{vmatrix} = \frac{9}{4}\sqrt{st}$ である。

積分領域は $\{(s, t) \mid s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq 1\}$ であるから、 $\iint_D x^{1/3} dx dy = \frac{9}{4} \int_0^1 \int_0^{1-s} s\sqrt{t} dt ds = \frac{9}{4} \int_0^1 s \left[\frac{2}{3} t^{3/2} \right]_0^{1-s} ds = \frac{3}{2} \int_0^1 s(1-s)^{3/2} ds = \frac{3}{2} B(2, 5/2) = \frac{3}{2} \frac{\Gamma(2)\Gamma(7/2)}{\Gamma(9/2)} = \frac{3}{2} \frac{\frac{3}{2} \frac{1}{2} \sqrt{\pi}}{\frac{7}{2} \frac{5}{2} \frac{3}{2} \sqrt{\pi}} = \frac{6}{35}$ である。

(2) $f_x = -1+y+z+2x, f_y = -2+x+z+2y, f_z = -1+x+y+2z, f_{xx} = f_{yy} = f_{zz} = 2, f_{xy} = f_{xz} = f_{yz} = 1$ である。よって $f_x(x, y, z) = f_y(x, y, z) = f_z(x, y, z) = 0$ とすると、 $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ より $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$

が唯一の解である。 $(0, 1, 0)$ でのヘッセ行列は $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ で $|2| > 0, \begin{vmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{vmatrix} > 0, \begin{vmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{vmatrix} > 0$ であるから極小値 $f(0, 1, 0) = -1$ をとる。